

冬物衣料に多い中わたやダウンを使った製品、表地に高密度織物を使用した製品などでは、ドライ洗剤などの不揮発成分が残留してシミが発生することがあります。今回は、ドライ洗剤などの残留によるシミ(際つき)について紹介します。

監修／クリーニング総合研究所



衣類の状態

全体各所が濃色になっている。特にキルティングのステッチに沿っての濃色が目立つ。

るために溶剤が移動、集中しやすい。

シミに水をスプレーすると速やかに吸収して濡れた状態になることから、シミの成分がドライ洗剤を主体にしていることが推定できる。

原因

石油系溶剤によるドライクリーニングの脱液後に残留していた洗剤が乾燥の段階で縫い目部分に移動、集中し、ドライ洗剤を主体とする溶剤中の不揮発成分が濃縮されたことにより生じたもの。

このような現象は、洗剤液が浸透しにくく、また浸透した洗剤液が抜けにくい性質をもつ樹脂コーティング製品や高密度織物製品などに発生しやすく、中わたや羽毛を使ったキルティング製品は、洗剤の残留量が多くなるため更に発生しやすい。

なお、現品の取扱表示はドライ



カーキ色のジャンパー

クリーニング不可になっている。

事故の防止対策

ドライ洗剤の残留をなくすことが絶対条件となるが、石油系ドライクリーニングの場合には※1浴循環式のシステムが基本になっているため、ドライ洗剤をすぎ出す工程を実際上とすることができず、完全な防止は困難。適正な溶剤管理を行うことのできる限りシミの発生を軽減することが基本となる。

主なポイントは次の通り。

●溶剤の酸価と着色状態を管理しながら常に清浄な状態を保つ

石油系ドライクリーニングでは、パウダーやろ紙等によるろ過と、活性炭や脱酸剤等での吸着により溶剤を清浄化しているが、フィルター性能の低下や能力不

足、吸着性のない油性汚れの存在などにより、すべての汚れをフィルターで完全に捕捉することは不可能である。これらの汚れが溶剤中に蓄積することもシミの発生原因になる。

●洗浄時間を適正に設定する

1 浴フィルター循環による洗いを基本とする石油系ドライクリーニングでは、汚れがフィルターで完全に除去された時点で洗浄を完了するのが理想であり、洗浄時間は、フィルターで汚れが十分に除去されるよう考慮して設定する。

●脱液を十分に行い、汚れた洗剤の残留量をできる限り少なくする

●汚れや加工剤などが部分的に集中しないような乾燥方法を工夫する



ステッチに沿って濃色が目立っている

※1 浴循環式…一つの槽内で、ベースタンクから同一の溶剤をフィルター循環させて洗浄する方式

- 品名…ジャンパー
- 素材…100%ナイロン
中わた：100%ポリエステル
- 取扱表示…
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブル乾燥

●「衣料管理情報」は全ク連ホームページからPDFをダウンロードいただけます。
全ク連 HP <https://www.zenkuren.or.jp> 「お知らせ」→「衣料管理情報」